



### フロ川家のご主人&お孫さん

60代前半の会社員。30代前半でハイムを建て、約30年の半生を共にする。現在は妻と二人暮らしで、楽しみは毎晩の風呂と、時々遊びに来る孫の成長なのだ。

### ファミエスマン



よりよい住まいのために日々戦うリフォーム戦士。悩みの声を聞きつけるところからともなく登場し、知識と経験を武器に問題を解決する。

# ファミエスマンがやって来る!

この物語は、住まいに悩む人々とリフォーム戦士ファミエスマンがよりよい暮らしを目指した奮闘の記録である。第2回のテーマは浴室。安心と快適を求めるシニア世代をナビゲートします!

## 第2回 浴室リフォーム編



## 真冬は特に注意! 入浴時のキケン

近年、増加しているといわれる高齢者の入浴時の事故。最悪の場合、死にも至る入浴時の事故原因と対策をご紹介します。

### ワースト① 不慮の溺死

暖かい部屋から寒い浴室へ移動し、さらに熱めの浴槽につかることによって血圧が急変。この「ヒートショック」が原因で脳卒中や心筋梗塞を起こし、溺死する事例が多くみられます。

→家全体の温度差をなくそう!

### ワースト② 転倒・転落

洗い場で足を滑らせる、浴室の入口でつまずく、浴槽をまたぐ際に足を引っ掛ける、などの事故が多発しています。介護が必要になることも。

→段差をなくし、支える場所を設けよう!

## 浴室乾燥機で 温熱バリアフリー



ヒートショック対策には、浴室暖房乾燥機の設置が効果的。入浴前にはあらかじめ暖房をつけて、暖かい部屋との温度差をやわらげましょう。また、乾燥機能を使えば衣類を乾かせる乾燥室に早変わり。天井や壁のカビを抑えることもでき、お手入れの負担も軽減します。

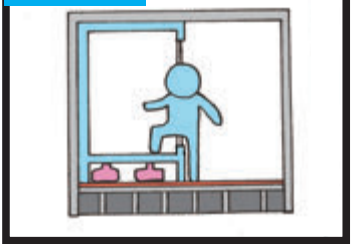




浴室は本来リラックスするための空間。  
リフォームで安全性と清掃性のアップ、  
光熱費節約を実現しよう！

## ハイムだから安心の バリアフリー工法

Before

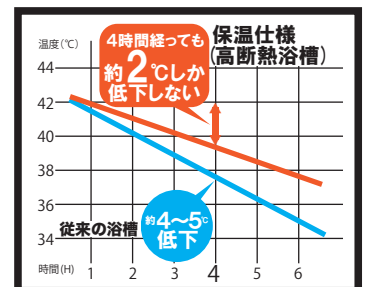


After



入口の段差は、脱衣室と同じ床高にユニットを組み込むことで生まれます。リフォーム時はこの段差をなくすために床を切断するので、建物全体の強度に問題が生じることも。しかしハイムの工法なら、専用の補強材を入れるため建物の強度が損なわれる心配はありません。新しいユニットも、従来のハイムの構造にジャストフィットするので安心です。

## お湯が冷めにくい 保温仕様浴槽



ハイムの浴槽は従来に比べて断熱性がぐんとアップ。例えば、従来の浴槽では4時間経つと湯温が約4~5°C低下していたところが、最新の浴槽だと約2°C程度しか低下しません。ふたり暮らしなら追い炊きの回数も減り、光熱費の節約にもつながるので断然オトクです。

※温度変化は JISA5532「浴槽」で示された試験方法に基づく結果です。従来品は、当社のデータに基づく。  
※設置条件や使用環境・利用方法により値は変わります。また、噴流装置などの機器設置によっても値は変わります。